



福岡県の土地改良

第178号
平成28年1月1日

福岡県土地改良事業団体連合会



一番茶つみ

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

平成28年 元旦

福岡県土地改良事業団体連合会(水土里ネット福岡)

- | | | | |
|-------|---------------------|------|--------------------|
| 会長理事 | 金子 健次(柳川市長) | 理事 | 赤間 幸弘(嘉麻市長) |
| 副会長理事 | 新川 久三(築上町長) | 同上 | 中村 征一(筑後市長) |
| 副会長理事 | 野田 耕助(城島町土地改良区理事長) | 同上 | 石川 潤一(大木町長) |
| 専務理事 | 渡辺 正人(学識経験者) | 同上 | 井上 幸春(みやこ町長) |
| 理事 | 小寺 均(学識経験者) | 総括監事 | 宮内 實生(岡垣町長) |
| 同上 | 小山 達生(福津市長) | 監事 | 田頭 喜久己(筑前町長) |
| 同上 | 重 正善(糸島市二丈土地改良区理事長) | 同上 | 鬼丸 岳城(瀬高町土地改良区理事長) |
| 同上 | 高木 典雄(うきは市長) | 事務局長 | 岩田 阿佐美、外職員一同 |
| 同上 | 有吉 哲信(宮若市長) | | |

CONTENTS

- 01 新年のご挨拶(金子会長)
- 02 新年のご挨拶(二階全土連会長)
- 03 新年のご挨拶(進藤会長会議顧問)
- 04 第38回全国土地改良大会 青森大会
- 05 農業農村整備の集い
- 06 平成28年度 農業農村整備事業の予算に関する要望
農林水産省・関係国会議員
(福岡県土地改良事業団体連合会
福岡県農業農村整備事業推進対策委員会)
- 07 平成28年度 農業農村整備事業の予算に関する提案
農林水産省・関係国会議員
(九州農業農村整備事業推進協議会
土地改良事業団体連合会九州協議会)
- 08 平成27年度 農業基盤整備資金研修会
- 08 平成27年度 九州「農地・水・環境保全」フォーラム in 熊本
(福岡県農地・水・環境保全協議会)
- 08 第20回福岡県農林水産まつり
- 08 平成27年度 市町村・土地改良区等役職員研修会
- 09 平成27年度 中山間ふるさと・水と土保全対策事業活動報告
(うきは市)
(上毛町)
- 09 21世紀土地改良区創造運動活動報告
(元永土地改良区)
(耳納山麓土地改良区)
- 10 第16回「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2015
- 10 非補助農業基盤整備資金のご案内



【表紙】

第10回水土里のふるさと写真コンテスト

優秀賞「一番茶つみ」

撮影場所：うきは市 妹川

【発行所】 福岡県土地改良事業団体連合会
福岡市博多区千代4-4-28
TEL 092-642-1881

【編集】 総務課



新年のご挨拶

福岡県土地改良事業団体連合会
(水土里ネット福岡)

会長 かねこ金子 けんじ健次

明けましておめでとうございます。

会員の皆様方におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

また、平素より本会の業務運営に格段のご高配を賜りますとともに、農業農村整備事業の推進に多大なるご尽力を賜り、厚くお礼申し上げます。

ご承知のとおり、農業・農村は、安全で安心な食料の供給はもとより、洪水調節、水源涵養、生態系保全、潤いや農村景観の保持など多面的機能を有しており、今日に至るまで土地改良区をはじめとする関係者の方々のご努力により農業水利施設などを健全に維持保全されてきたところです。

しかしながら、昨今、農産物価格の低迷、農業従事者の高齢化、さらには、ため池、揚排水施設、取水施設、用排水路など農業水利施設の老朽化に伴う施設の維持管理費の負担増大や頻発する異常気象による災害への懸念、また、TPPの影響など、その情勢は変化しており、大変厳しい局面となっております。

このような中、国においては、現在、「農林水産業・地域の活力創造プラン」に基づき農地集積の加速化に向けた農地中間管理機構の活用、経営所得安定対策の見直し、水田フル活用、日本型直接支払い制度に関連する各種の施策が展開されております。これに伴い、これらの施策の推進を後押しする農地の基盤整備や国土強靱化を踏まえた農業水利施設の整備などの農業農村整備事業の重要性が従来に増して高まってきております。また、本事業に対する地元の要望も大変強いことから、本会では、各関係機関に対し必要な予算の確保に向けより積極的に提案活動に取り組んできました。

今回、国の予算編成にあたって重視される「経済財政運営と改革の基本方針」、いわゆる「骨太の方針」で「土地改良事業については、高付加価値化・生産コスト削減に資する農地の大区画化・汎用化や維持・保全等を一層推進する」との一文が盛り込まれたのは大変意義深いことと思います。

本会といたしましては、今後とも、会員の皆様と連携をはかり、計画的な事業の推進が図られますよう予算の確保、制度の要求に取り組んでいきたいと考えております。

また、新水土里情報システム (F-cloud)、新技術の測量などを活用した農地・農業用施設の管理、各種事業の円滑な推進など、役職員一丸となって業務運営にあたって行く所存です。

結びに、皆様方のご健勝とご多幸を心から祈念いたしますとともに、今まで以上のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げ、年頭の挨拶とします。

平成28年1月1日



新年に当たって

全国土地改良事業団体連合会

会長 にかい 二階 としひろ 俊博

平成28年の年頭に当たり、全国の農業農村整備事業の推進にご尽力をいただいている皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

昨年、当会の会長に就任しましてから、関係者の皆様のご支援を受けながら、これまで事業の推進に尽力して参りました。とりわけ、会長就任時には民主党政権時代に7割近く削減された状況であった予算を、まずは復活させようと、予算獲得に向け本気になって取り組んで参りました。各都道府県連合会からは、財源不足による事業の停滞に対し、悲鳴が上がっておりましたし、一日も早く予算確保を訴える声が届いておりました。このため「闘う土地改良」を旗印に、真剣な取り組みを訴えて参りました。おかげさまで、昨年末には平成27年度補正予算と同28年度予算とで総額4,810億円を政府予算編成案において確保することができました。

私は、皆様の要望を実現するためには、いつまでも下を向いているのではなく、本会として具体的な行動を起こすことが重要である旨申し上げ、次期参議院選挙には候補者を打ち立て、明確な意思を表明することが重要であると申しました。おかげさまで、農林水産省から進藤金日子君が現職課長を辞して立候補することとなりました。彼は秋田県の農村出身で、土地改良に熱い思いを持っており、是非、土地改良のために頑張りたいと積極的に活動してくれています。

今、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。

さらには、昨年TPP交渉が大筋合意されたことを受けて、「総合的なTPP関連政策大綱」が決定されましたが、私は農業農村の振興に、支障を来さないように努力をしていかなければならないと思っております。

我々水土里ネット関係者としましては、このような現状をしっかりと受け止め、積極的に役割を果たしていくことが重要と考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様にアピールし、共感を得ていく努力も必要と考えます。幸いにして、農地を集積し、経営規模を拡大することにより、新たな農業経営を展開するべく全国各地で志の高い取り組みが見られるようになってきております。

土地改良は、農業農村の整備や振興を通じて国土を維持し、発展させることを目的としております。そのためには、自分達の生活は必ずや自らが守り発展させていくという気構えが不可欠です。それを、我々の先人達が時々の時代背景の中で繰り返し最大限努めてきたことだと思うのです。現代に生きる我々が手をこまねていることは決して許されることではありません。私は全国の土地改良関係者の皆様の協力をいただきながら、ひき続き予算の獲得や参議院選挙の勝利に向け真剣に闘う決意を新たにいたしました。

本日、輝かしい年の初めに当たり、本年が全国の皆様にとってよき年でありますように、ご健勝とご発展を祈念いたしまして、私の新年のご挨拶といたします。



“闘う土地改良”の 先頭に立って

全国水土里ネット会長会議
顧問 進藤 金日子

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、良き年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

私は、昨春、新しく全国土地改良事業団体連合会会長に就任された二階俊博先生が提唱された「闘う土地改良」に込められた真義に感銘し、また触発され、政治活動の途を志す決意を固め、昭和61年に入省以来、29年間勤めてきた農林水産省を昨年6月、中山間地域振興課長を最後に辞職しました。

その後、7月29日に都道府県土地改良事業団体連合会会長会議（全国水土里ネット会長会議）顧問を仰せつかり、全国各地を回り、その実情を聞かせて頂きました。移動した距離は約30万km、日本の農業水路の総延長約40万km（地球10周分）の4分の3に達しました。全国を巡回する中で、我が国の国土には人間の体でいうと動脈と静脈にあたる農業用水路・排水路が隅々まで張り巡らされ、肉体にあたる450万haの農地と一体になって国民の食料を支えており、多面的機能の適切な発揮を通じて、まさに日本の国土を支えていることを改めて実感した次第です。

そして、様々な課題も聞かせて頂きました。農業・農村の現場で聞く声は本当に切実で、心に響きました。過去・現在・将来とも国民の食料を支える農地と水、それを可能としている土地改良は「日本の命綱」ですが、その命綱が切れそうになっていることに強い危機感を禁じ得ません。

全国各地を回り始めてから約4か月経た時点で、私なりに全国の声を集約し、全国水土里ネット会長会議に報告しました。そして、その報告した内容を私に課せられた5つの使命として承り、その使命を果たすため全身全霊で取り組んでまいります。

1. 土地改良の予算確保に全力
2. 日本型直接支払制度の充実に全力
3. 災害に強い農山漁村づくりに全力
4. 自然豊かな美しい農山漁村の継承に全力
5. 農業と農山漁村への国民の理解に全力

この「5つの全力」を通じて、「安全で安心な食」、「大切な農地と水」、「美しい農山漁村」、この3つを守り抜くことを約束します。

貴県の取り組みも十分勉強させて頂きながら、農業・農村の現場と行政・国政の場とのキャッチボールを主導し、自らがそのボールとなって粘り強く両方の「場」を往復できるように、果敢な中にも謙虚に自己を研鑽し、更に幅広く深く政治活動を前に進める覚悟です。

最後に、今年は、土地改良にとって剣ヶ峰と言ってよい程の大きな節目の年となります。私は、幅広い国民の皆さんのご理解と土地改良に関わる私たちの結束を源泉として、「闘う土地改良」の先頭に立って全力疾走することを改めてお誓いします。

本年が皆様お一人おひとりにとって良き年となることを祈念し、私の年頭のご挨拶と致します。



第38回全国土地改良大会 青森大会

日時：平成27年10月15日

場所：新青森県総合運動公園（マエダアリーナ）

第38回全国土地改良大会は、「土地改良の路繋ぎ 明日への確かな途拓く」をテーマに、農業農村整備に関わる全国の関係者約3,500名が一堂に集い開催されました。

大会で行われた土地改良事業功績者表彰では、福岡県から全国土地改良事業団体連合会長表彰を大野島土地改良区理事長の古川 敬次郎氏が受賞されました。



全国土地改良事業団体連合会長表彰
大野島土地改良区 理事長 古川敬次郎氏



大会宣言

私たちは、今から21年前に次世代を担う若者の代表として、「第17回全国土地改良大会 青森大会」で、活力ある農業農村づくりを宣言しました。

農を生業として、それぞれ生産現場の第一線で、しっかり大地に根を張って、日々の仕事に従事しています。

この間、私たちは、安全で安心できる作物の生産や品質の向上に努め、消費者の喜ぶ笑顔を励みに、さらなる向上を目指してまいりました。

しかし、農産物の貿易自由化や消費者ニーズの多様化といった時代の変化の影響を受け、加えて、高齢化社会の進行や過疎化、担い手不足がそれに拍車をかけるなど、かつて経験したことのない試練に遭遇しています。

それでも、私たちはここで立ち止まるわけにはいきません。

この先いかなる困難がつかまとも、農業の持続的発展と農村の活力強化のために、これまで、培ってきた経験を活かし、技術を磨き、多くの仲間の英知を結集して、必ずやこの局面を打開していかなければならないと、改めて決意を強くするものです。

そして、忘れてならないのは、農業の持続と農村の活力を支える、「水と土」の健全性を確保していくことです。

白神山地や八甲田山系から流れる湧水は、やがて本流となって大地を隅々まで潤し、そこには豊かな緑に囲まれた「あづましい農村」と多様な生態系が形成され、消費者が喜ぶ安全・安心な農作物が育つのです。

今日ある農業農村の繁栄は、先人達が自然の営みと共存しながら、幾多の難難を乗り越え、土地改良の技術を駆使して、水を引き、農地を拓いてきたからではないでしょうか。

私たちはそうした「水と土の防人」たちが流した汗の結晶を、しっかり胸に刻印し、「強い農業」と「美しく活力ある農村」づくりを支えている土地改良を、国の目指す方向を見据えながら、力強く牽引していく、その一歩を踏み出す覚悟です。

本日、ここに集う私たち「水土里ネット」は、「土地改良の路繋ぎ 明日への確かな途拓く」に思いを馳せ、魅力ある農業農村の明るい未来を確かなものにしていくため、農業農村の礎である「水・土・里」を健全な姿で次世代に引き継いでいくことを、ここ、「北のまほろば青森」から高らかに宣言します。



農業農村整備の集い

平成27年11月27日東京都千代田区平河町の「シェーンバッハ・サボー」において全国水土里ネットの主催による「農業農村整備の集い」が開催されました。

全国から土地改良関係者700余名参加のもと国会議員を多数招き、農業農村整備事業の動向についての情勢報告や事例発表が行われました。

集いは、全国水土里ネット二階会長の挨拶で始まり、森山農林水産大臣の祝辞に続き、都道府県土地改良事業団体連合会会長会議進藤かねひこ顧問の状況報告があり、島根県土地改良事業団体連合会の長崎専務理事朗読による要請書が満場一致で採択され、山形県土地改良事業団体連合会の佐貝会長のガンバロウ三唱で参加者全員一致団結して閉幕しました。



二階会長の挨拶

要 請 書

我が国の農業・農村は、農業従事者の高齢化、減少とともに、高齢者のリタイア等による農地の荒廃、担い手不足等による農地、農業用水の管理や営農の継続への影響など、多くの課題に直面している。

農業農村整備は、地方創生、農業の競争力強化、国土強靱化といった政策課題への対応において重要な役割を果たしており、持続可能な強い農業の実現のためには、大区画化や汎用化等の農地整備、適時適切な農業水利施設等の維持・更新が必要である。加えて近年の気候変動による豪雨災害の多発や全国各地でため池を含む農業水利施設の老朽化が進行する中、防災・減災対策の推進も必要である。

また、農林水産業の成長産業化のためには、担い手への農地集積やイノベーション、6次産業化の戦略的推進とともに、土地改良事業の計画的・安定的実施が必要不可欠である。

全国の水土里ネットは、食料の安定供給や農業・農村の多面的機能を発揮させるため、農地・農業用水等の地域資源を良好な状況で次世代に継承していく責務がある。しかしながら、この責務の遂行に不可欠な土地改良関係予算は、平成22年度に大幅に削減され、その後徐々に回復しているものの、平成27年度においても削減前の6割程度にとどまっている状況である。

農林水産省においては、平成28年度の土地改良関係の予算概算要求において、1,000億円の増額要求がなされているが、農業・農村施策の改革を加速化するため、概算決定時に地域の要望を十分に満たす予算額を確保することが必要である。

さらに、TPP交渉の大筋合意の結果を踏まえ、国内農業への影響を最小限にとどめるよう、万全の国内対策を一刻も早く講じることが喫緊の課題である。

全国の水土里ネットは、これまで培ってきた経験と技術を活用し、国が目指す施策の展開方向を踏まえ、「闘う土地改良」のスローガンの下、次の事項の実現を国に強く要請する。

記

- 1 安定的・計画的な事業執行のために、平成28年度当初予算においては、平成22年度に大幅削減された土地改良関係予算の復活に向け、地域の要望を十分に満たす予算額を確保すること。
- 2 TPP交渉の大筋合意結果を踏まえ、将来にわたって意欲ある農業者が希望を持って経営に取り組めるよう、万全な国内対策を積極的に講じること。
さらに、今年度においても、事業執行を加速化するため、十分な規模の補正予算を確保すること。
- 3 食料自給力の向上と担い手への農地集積を加速化し、コスト低減や高品質な農作物の生産など強い農業の展開を可能とするため、水田の大区画化や汎用化、畑地かんがい施設の整備をはじめとした各種の対策を着実に推進すること。その際、中山間地域等の地域特性を踏まえた基盤の再整備により農業経営の展開が可能となるよう十分配慮すること。
- 4 東日本大震災をはじめとする災害からの復旧・復興を加速的に進めるとともに、農村地域の強靱化に資するよう、ため池を含む老朽化した農業水利施設の長寿命化と耐震化、洪水被害防止等の防災・減災対策を、国が責任を持って着実に推進すること。
- 5 多面的機能支払制度の推進に当たっては、国において、十分な予算確保に加え、地域協議会や土地改良区がこれまで培った技術、経験などを十分に発揮できるよう、都道府県を指導すること。
- 6 農村の資源を有効に活用し、再生可能エネルギーの普及、維持管理費の低減に資するため、小水力発電等を推進すること。
- 7 組合員に対する賦課金が高騰する一方で、担い手への農地集積等に対応した高度な水管理等が行えるよう、土地改良区の運営基盤の強化を図ること。

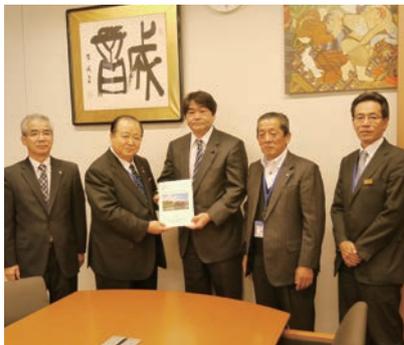
平成27年11月27日

自 平成28年度 農業農村整備事業の予算に関する要望

平成27年11月26日～27日に、農林水産省と関係国会議員に対して、福岡県土地改良事業団体連合会及び福岡県農業農村整備事業推進対策委員会による平成28年度農業農村整備事業予算等に関する要請活動を行いました。



室本農村振興局次長への要望



藤丸敏衆議院議員への要望



大家敏志参議院議員への要望

農業農村整備事業の予算に関する要望書

福岡県における農業農村整備事業の推進につきましては、平素より格別なるご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

現在、本県の農業・農村においては、過疎化、高齢化、担い手不足に加え地域活力の低下、農地・農業用施設の経年変化による機能低下、頻発する自然災害等により、安全な食と健全な農業・農村の保全への影響を懸念しております。

特に、ため池やポンプ施設、水路など農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非主食米等への転換に支障を来すばかりでなく、地域住民の生命と財産にも多大な損害をもたらすのではないかと大変危惧しているところです。

このため、農業農村整備事業をはじめとした各種の施策の推進により、国土強靱化のための防災・減災等の対策や農業競争力強化のための担い手への農地集積を実現していく必要があります。

つきましては、本県の農業・農村の現状をご賢察いただき、農業農村整備事業関係施策が計画的、効率的に展開できますよう、必要な予算の確保を賜りたくご要望申し上げます。

記

- 一、平成28年度農業農村整備事業概算要求額の満額確保
- 一、平成27年度農業農村整備事業追加予算の確保

福岡県土地改良事業団体連合会

- 会 長 **金子 健次** (柳川市長)
- 副 会 長 **新川 久三** (築上町長)
- 副 会 長 **野田 耕助** (城島町土地改良区理事長)

福岡県農業農村整備事業推進対策委員会

- 委 員 長 **松岡 吉寛** (両筑土地改良区理事長)
- 副委員長 **月形 祐二** (糸島市長)
- 副委員長 **後藤 元秀** (豊前市長)



平成28年度 農業農村整備事業の予算に関する提案

平成27年11月27日に農林水産省と関係国会議員に対して、九州農業農村整備事業推進協議会と土地改良事業団体連合会九州協議会による合同政策提案を行いました。



森山農林水産大臣への要望

九州農業農村整備事業推進協議会

会 長 江里口 秀次 (佐賀県推進協議会会長・小城市長)
副 会 長 松岡 吉寛 (福岡県推進委員会委員長・両筑土地改良区理事長)
宮本 明雄 (長崎県推進協議会会長・諫早市長)
中嶋 憲正 (熊本県推進部会会長・山鹿市長)
是永 修治 (大分県推進協議会会長・宇佐市長)
前田 穰 (宮崎県推進委員会委員長・綾町長)
宮路 高光 (鹿児島県推進協議会会長・日置市長)

土地改良事業団体連合会九州協議会

会 長 田中 源一 (佐賀県土地改良事業団体連合会会長)
副 会 長 金子 健次 (福岡県土地改良事業団体連合会会長)
宮本 正則 (長崎県土地改良事業団体連合会会長)
荒木 泰臣 (熊本県土地改良事業団体連合会会長)
義経 賢二 (大分県土地改良事業団体連合会会長)
丸目 賢一 (宮崎県土地改良事業団体連合会会長)
永吉 弘行 (鹿児島県土地改良事業団体連合会会長)
古謝 景春 (沖縄県土地改良事業団体連合会会長)

平成28年度 農業農村整備事業の予算に関する要望書

九州・沖縄地域における農業農村整備事業の強力な推進に向けて

九州・沖縄地域の農業農村整備事業の推進につきましては、日頃から格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

九州・沖縄地域の農業・農村は、温暖な気象条件等の地域特性を生かした多彩な農産物を生産し、国民に安全・安心な食料を安定的に供給するなど、我が国の食料供給基地として重要な役割を担っております。

しかしながら、今日の九州・沖縄地域の農業・農村は、過疎化、高齢化、担い手不足などに加え耕作放棄地の増大や鳥獣被害など多くの課題が山積しており、食料生産や先人達が築き守ってきた美しい農村環境に甚大な影響を及ぼすことが懸念されます。

また、このような状況が続けば、営農意欲の減退による農地の荒廃、農業水利施設の老朽化等に拍車がかかり、食料生産の減少による食料自給率の低下、さらには国土保全機能の低下が危惧されます。

このような中、国におかれましては平成28年度農業農村整備事業に関する予算概算要求では、重要事項の農業農村整備事業費や農地耕作条件改善事業を含め、平成27年度予算を上回る要求がなされたところであり、九州・沖縄地域の特性に応じた確かな事業を図るため、大きく期待しているところであります。

このことにより、農業農村整備事業が加速化することは、活力ある農業・農村の将来に大きく寄与するものであり、更には農業・農村が持つ課題解決や地方創生にも繋がるものと期待しています。

日本の豊かな国土や自然環境は、健全な農業・農村があって初めて維持されるものでありますので、今後も持続的発展のために、更なる農業農村整備事業を強力に推進する必要があります。

つきましては、このような九州・沖縄地域の農業・農村の現状を御賢察いただき、平成28年度農業農村整備事業予算の必要額の確保に関しまして特段の御配慮を賜りますよう、強く下記事項を提案いたします。

記

- 1 平成28年度農業農村整備事業概算要求 1,000 億円増額の満額確保
- 2 多面的機能支払交付金制度の確保
- 3 水土里情報システムの更新に係る予算の確保



平成27年度 農業基盤整備資金研修会

日時：平成27年9月8日 午後2時～

場所：水土里ネット福岡

福岡県、市町村、土地改良区等の関係職員33名が参集した研修会は水土里ネット福岡の渡辺専務理事の開会挨拶で始まり、下記の議題について講義が行われました。

議 題

- 1) 農業基盤整備資金の概要について
- 2) 農業基盤整備資金について
- 3) 農業基盤整備資金融資事務等について



平成27年度九州「農地・水・環境保全」フォーラム in 熊本

日時：平成27年11月11日 午後1時～

場所：熊本県立劇場「演劇ホール」

平成27年度九州「農地・水・環境保全」フォーラムin熊本が、ふるさと環境フォーラム・九州連絡会主催のもと開催されました。

このフォーラムでは、九州各県の活動組織等約1,400名が集い、活動の事例発表等を行っています。今回は福岡県を代表して糸島市の「井原環境を守る会」が、井原三千石を育てて来た地域資源を住民一体となって守る活動について発表され、会場の出席者から大きな拍手が送られました。



第20回福岡県農林水産まつり（福岡県）

日時：平成27年11月14日～15日

場所：県営天神中央公園

第20回福岡県農林水産まつりが開催されました。その中で、福岡県農林水産業特別功労者表彰として糸島市志摩土地改良区前理事長の吉村氏が表彰されました。



福岡県農林水産業特別功労者表彰
糸島市志摩土地改良区
前理事長 吉村 勝氏



平成27年度 市町村・土地改良区等役職員研修会

日時：平成27年11月19日 午後1時30分～

場所：水土里ネット福岡

平成27年度 市町村・土地改良区等役職員研修会を開催しました。

研修会は、水土里ネット福岡の金子会長の主催者挨拶、福岡県農林水産部の吉村次長の来賓挨拶で始まり、福岡県農林水産部農村森林整備課基盤整備係長の安東利幸氏による「福岡県の農業農村整備事業の現状と今後の動向について」の説明がありました。続いて、大分大学名誉教授の山岸治男氏による「仕事・暮らし・文化交流が持続する里山・里海づくり」と題しての特別講演を行い、水土里ネット福岡情報管理課より「水土里ネット福岡における新技術の活用」について説明を行いました。

最後に、九州農政局農村振興部設計課長の登り俊也氏による「平成28年度農林水産予算概算要求の概要について」の説明を行いました。



金子会長挨拶

平成27年度 中山間ふるさと・水と土保全対策事業水土里保全啓発業務委託

第21回棚田 in うきは 彼岸めぐり&ばさら祭（うきは市）

日時：平成27年9月19日～23日 場所：うきは市浮羽町新川棚田群

主催：棚田 in うきは 彼岸花めぐり & ばさら祭実行委員会

共催：うきは市、福岡県

イベントでは彼岸花が見頃の中、棚田めぐりが開催されました。また、普段訪れない地域をめぐる「奥の奥までばさらツアー」が同時開催され参加者は地域の方との交流を楽しみました。棚田めぐりは来年も開催予定です。



西友枝松尾山観月祭（上毛町）

日時：平成27年9月26日

場所：上毛町西友枝松尾山 三社神社 下宮跡地 他

主催：西友枝体験交流センター(ゆいきらら)運営委員会

共催：上毛町、福岡県

今年で4回目となる西友枝松尾山観月祭が開催されました。

日中は、棚田ウォーキング、夕方からは竹灯笼と松明の幻想的な灯りのもと、バリトンコンサートや和太鼓や神楽が披露され、多くの来場者で賑わいました。



21世紀土地改良区創造運動

秋の収穫祭 元永土地改良区（行橋市）

日時：平成27年10月18日

場所：元永土地改良区事務所及びその周辺

今年で8回目となる元永秋の収穫祭が開催されました。この祭りは、農村と都市が一体となり、農作物の収穫に感謝し、翌年の豊作を祈念するもので、枝豆摘みをはじめ、行列必至のシシ汁など、お腹も好奇心も大満足のプログラムが目白押しでした。



第31回田主丸耳納の市 耳納山麓土地改良区（久留米市）

日時：平成27年11月21日～22日

場所：田主丸町 福岡県緑化センター

第31回田主丸耳納の市が開催されました。毎年、土地改良区がこのイベントを利用し、ブース出展を行い、クイズ大会やパネル展示を行って、土地改良区が果たしている役割、農業用施設の持つ多面的機能等を紹介しています。



Value 積水化学バリューチェーン賞



両開の田うえ 3年生の作品

第16回
「ふるさとの田んぼと水」

子ども絵画展
2015



全国水土里ネット主催の第16回「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2015について、福岡県より多数のご応募を頂きありがとうございました。福岡県内の入選作品を紹介します。

入選



三れん水車 2年生の作品



泥んこ祭り 3年生の作品



三連水車 5年生の作品



ふるさとの棚田
6年生の作品



非補助農業基盤整備資金のご案内

土地改良区等が国からの補助を受けないで、かんがい排水やほ場整備、客土などの事業に取り組み、農業生産基盤の整備・保全の推進を図る場合、(株)日本政策金融公庫等が農家負担の軽減を目的に、土地改良区等に対して低利で融資する資金です。
なお、国の補助対象でない県または市町村単独による補助事業についても融資の対象となります。

- 貸付限度額 複数年にわたる事業の場合、各年度とも土地改良区が当該年度に負担する額までとなっています。(ただし、融資は1件当たりの最低額は50万円となっています。)
- 貸付金利 (固定金利)非補助一般 融資期間に拘わらず0.7%(12月18日付)
- 償還期限 最長25年間(措置期間10年以内を含む)になっており、事業内容に応じて設定できます。

ご相談
お問い合わせ

- 県農林事務所 (農村整備第1課)
 - 福岡県信用農業協同組合連合会 (融資サポート部)
 - (株)日本政策金融公庫 福岡支店 (農業食品課)
 - 福岡県土地改良事業団体連合会 (農村整備1課)
 - 市町村役場
 - 農業協同組合
- TEL (092)711-3572
TEL (092)451-1780
TEL (092)642-1890



福岡県土地改良事業団体連合会

新しい農業・農村の環境づくりを支援し、都市と農村の共生を目指します。

水土里ネット福岡

私たちは個人情報大切に扱っています。
私たちはプライバシーマーク認定事業者です。
《認定番号:18940003(01)》



事務局 〒812-0044 福岡市博多区千代4丁目4番28号
TEL 092-642-1881 FAX 092-642-1886
http://www.mnf21.com

農村整備2課 (北部事務所) 〒824-0005 行橋市中央1丁目8番7号
TEL 0930-22-3655 FAX 0930-22-3282
E-mail://hokubu@mnf21.com

農村整備3課 (南部事務所) 〒833-0041 筑後市大字和泉640番1
TEL 0942-53-2294 FAX 0942-53-2742
E-mail://nambu@mnf21.com